

平成二十年度 総会報告

四国の川を考える会事務局

平成二十年度の総会を六月二十四日、高松市において、会員百九十八名のうち六十八名が出席、百三名の委任状をもって開催しました。

四国の川を考える会 平成二十年度総会次第

- 一、開会
- 一、会長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、議事
 - 1. 平成十九年度事業報告
 - 2. 平成十九年度決算報告及び監査報告
 - 3. 平成二十年度事業計画(案)及び予算(案)
 - 4. 役員の変更
 - 5. その他
- 一、閉会

1. 平成十九年度事業報告
- (1) 会議
- ① 運営幹事会
開催日／平成十九年四月二十四日(火)
場所／高松市 四国建設弘済会
議題／役員会・総会開催について
その他
- 開催日／平成二十年三月二十七日(木)
場所／高松市 四国建設弘済会
議題／平成二十年度助成事業について
その他
- ② 役員会

③ 総会
開催日／平成十九年五月十日(木)
場所／高松市 四国建設弘済会
議題／平成十九年度総会について
その他

④ 審査委員会
開催日／平成十九年十二月十四日(金)
場所／高松市 四国建設弘済会
議題／審査委員会による新規入会審議等
(一般会員二名・特別会員一社)
役員の変更

(2) 広報誌、機関紙の発行
① 広報誌『あめんぼ』No.37
発行 平成十九年九月 四万八千部制作
四国のオピニオンリーダーに配布
特集 川の文学散歩(4)
「自伝をはぐくんだ清流 仁淀川」

② 機関紙『水紋』VOI.26
発行 平成十九年九月 千百部制作
四国の川を考える会会員全員に配布

(3) 広報事業と助成事業
④ その他
講演「重信川エコリーダー活動報告」
I部 エコリーダーの概要、歴史および去年の活動紹介

II部 クリーン大作戦について
重信川エコリーダー会計書記 沖 俊貴
道後小での総合学習について
重信川エコリーダー代表 五十嵐 ひろ子

2. 平成十九年度決算報告及び監査報告

(1) 決算報告

(2) 監査報告

区分	イベント名	河川名・場所	主催者	実施状況
事業報	第25回ファミリーハゼ釣り大会	吉野川 名田橋～吉野川河口一帯	徳島県釣連盟、 四国の川を考える会	平成19年10月7日(日) 516名参加
助成	吉野川(四国三郎)と筑後川(筑紫次郎)兄弟縁組PRカレンダーのデザイン支援	吉野川 吉野川流域・筑後川流域 行政機関、学校、企業、河川関連民間団体配布	吉野川渡し研究会	縁組PRカレンダー 作成のデザインの支援
	那賀川源流まつり	那賀川 阿南市富岡町富岡商店街	那賀川アフターフォーラム	平成19年 7月24日(火)～25日(水) 約500名参加
事業	生物調査ならびにオオクチバス・ブルーギルの防除、水辺の学習会	鴨部川 さぬき市造田地区	香川県立高松工芸高等学校環境研究同好会	平成19年4月～平成20年1月 生物水質調査6回 10名参加/回 成果発表3回 150～300名参加/回
	サマースクール	八幡浜市立双岩小学校	愛媛大学教育学部 児童文化研究会	平成19年8月8日(水)～10日(金) 70名参加
業	土器川生物公園魚類調査及び清掃	土器川 土器川生物公園	土器川生物研究会	平成19年10月27日(土) 平成20年3月1日(土) 38名参加/回

(3) 広報事業と助成事業

(2)監査報告

平成19年度監査報告

「四国の川を考える会」会則第11条4項の規定により、監査を執行したので報告する。

記

監査執行日 平成20年4月9日
 監査内容 平成19年度本会経理状況
 意見 本会会計に係わる収入及び支出の状況並びに各帳簿書類は正確であり、金銭残高については、貯金通帳と合致していることを認める。

監事 香川県河川協会 **下村健次** (印)
 電源開発株式会社西日本支店 **井関晴夫** (印)

(1)決算報告(収入・支出)

(単位:円)

	費目	予算額	決算額	内訳
収入	前期繰越	2,402,078	2,402,078	
	特別会費	3,300,000	3,180,000	2,100,000(20,000×105社) 80,000(40,000×2社) 500,000(50,000×10社) 500,000(500,000×1社)
	一般会費	86,000	86,000	82,000(1,000×82人) 4,000(2,000×2人)
の部	事業収入	3,100,000	3,179,810	事業所等あめんぼ代 1,589,060 弘済会助成金 1,590,750
	雑収入	111,922	119,073	総会費 114,000 受取利息 5,073
	合計	9,000,000	8,966,961	
支出	機関紙発行費	900,000	816,900	水紋Vol.26 816,900
	広報活動費	4,258,000	4,218,062	
	広報誌発行費	3,200,000	3,181,500	(四国建設弘済会と共同制作) あめんぼ37号 3,181,500
	広報費	678,000	706,562	サーバ管理 378,000 パンフレット(会広報) 328,562
	広報事業費	100,000	100,000	第25回ファミリーハゼ釣り大会 100,000
	助成事業費	230,000	230,000	・那賀川源流まつり 60,000 ・サマースクール 50,000 ・吉野川(四国三郎)・筑後川(筑後次郎) 50,000 ・兄弟組組P.R.カレンダー作成のデザイン支援 40,000 ・土器川生物公園魚類調査及び清掃 40,000 ・生物調査並びにオオクチバス・ブルーギルの防除、水辺の学習会 30,000
	その他	50,000	0	
の部	会議費	500,000	348,190	マリンパレスさぬき 348,190
	事務費	350,000	292,001	旅費日当費 112,220 コピー 39,780 タクシー 7,900 郵便料 116,180 振込手数料 14,965 消耗品
	次期繰越	2,992,000	3,291,808	
	合計	9,000,000	8,966,961	

(1)-(3)・(4)広報事業と助成事業(案)

区分	イベント名	河川名・場所	主催	開催日(予定)
広報事業	第26回ファミリーハゼ釣り大会	吉野川 名田橋～吉野川河口一帯	徳島県釣連盟、 四国の川を考える会	平成20年10月12日(日)
助成事業	土器川生物公園魚類調査及び清掃	土器川 土器川河川敷	土器川生物研究会	平成20年7月～8月、 12月～1月
	那賀川源流碑開き	那賀川 那賀川源流碑及び源流モニュメント周辺(那賀郡木頭北川)	那賀川アフターフォーラム	平成20年4月20日(日)
	重信川クリーン大作戦	重信川 重信川流域	重信川の自然をはぐむ会 重信川エコリーダー	平成20年6月・11月
	桑野川アドプト	桑野川 桑野川河川敷	富岡児童クラブ	平成20年6月15日(日)
	肱川流域会議「水の中めがね」による流域での取り組み活動	肱川 大洲市肱川流域	肱川流域会議 水の中めがね	平成20年4月～ 平成21年3月

3. 平成二十年事業計画(案)及び予算(案)
- (1)事業計画(案)
- ① 機関紙「水紋」を発行
 - ② ホームページを活用、広報誌「あめんぼ」の情報発信を行う。
 - ③ 広報事業として「吉野川ファミリーハゼ釣り大会」を行う。
 - ④ 助成事業として五件の助成を行う。
 - ⑤ シンポジウム等への参加
- (2)予算(案)
- 会の目的にあったものに参加する。

4. 役員改選

(2)予算(案)

(単位:円)

役員	役員名	
	役員	役員名
監事	井関晴夫	下村健次
理事	川田通	池上隆祥
	満石孝治	森澤律仁
	福田昌史	公文治夫
	菊池弘美	岡部健士
	井下俊作	三井宏
	石破弘道	鈴木幸一
	副会長	石破弘道
	顧問	三井宏
	顧問	石破弘道
	顧問	三井宏
	顧問	石破弘道

費目	収入	支出	備考
前期繰越	3,291,808		
特別会費	2,590,000		20,000×100社、40,000×1社 50,000×11社
一般会費	85,000		1,000×85社
事業収入	0		
雑収入	133,192		総会費その他
機関紙発行費		900,000	「水紋」1回発行
広報活動費		2,650,000	
広報誌企画費		1,600,000	「あめんぼ」ホームページにて 情報提供
広報費		500,000	サーバ管理
広報事業費		100,000	ファミリーハゼ釣り大会 (徳島県釣連盟と共催)
助成事業費		400,000	5件の助成
その他		50,000	シンポジウム等参加費
会議費		400,000	総会等
事務費		350,000	
予備費		1,800,000	
合計	6,100,000	6,100,000	

●運営幹事

運営幹事名	
満石孝治	四国電力(株)水力部総括グループリーダー
井関晴夫	(社)四国建設弘済会専務理事
舟橋弘師	電源開発(株)西日本支店支店長代理
尼子 進	独立行政法人水資源機構吉野川局施設管理課長
公文治夫	佐藤工業(株)四国支店
五藤隆彦	四国地方整備局河川部河川情報管理官

●参与

参与名	
森兼永一郎	徳島県県土整備部河川課長
尼子 進	香川県土木部河川砂防課長
別府征二郎	愛媛県土木部河川課長
平田幸成	高知県土木部河川課長
五藤隆彦	四国地方整備局河川部河川情報管理官

新役員から一言

■理事

(社)四国建設弘済会 理事長 福田 昌史

四月より、四国に再上陸しました福田です。よろしくお願いいたします。

現在「九月十日」、早明浦ダムの貯水率〇パーセントが続いていますが、市民にあまり緊迫感が感じられないのは、私だけでしょうか。

二十一世紀の四国を考えますと、地球温暖化の影響がジワジワ身の回りに発生し始めているとも考えられます。中、長期的な大きな環境の変化とどのように付き合っていくのか、悩ましい課題が突きつけられています。当会の検討テーマでしょう。

皆さんの知恵を、結集して四国の川をよりよい姿で、次世代に引き継ぎたいと考えています。

■理事・運営幹事

四国電力(株)水力部 総括グループリーダー 満石 孝治
この度、理事・運営幹事を努めさせていただくこととなりました。

今年には四国では雨が少なく渇水の問題が新聞等ににぎわせている一方で、各地では集中豪雨による被害等も起きております。このような状況から、利水、治水の両面から、川に関する関心はますます高まっていくものと考えられます。

また、私自身も高松の単身から徳島に帰ったときに、ペランダから見える吉野川の水と眉山の風景には癒されるものがあります。一方、台風時に上流からの濁流を海に導いている川には力強さを感じます。

このように、いろいろな役割を果たしている川について思いを馳せながら、務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

■理事

高知県土木協会 幹事 池上 隆祥

高知県は、全国有数の豪雨地帯に属しているため、たびたび水害による被害を受けてきました。近年では、平成十六年、十七年に、台風による洪水で浸水被害が各地で発生しました。

また、最近は一極集中型の降雨が多い反面、降雨の年間格差、地域間格差が大きいことによる渇水も発生しています。

河川の維持管理には多くの課題がありますが、今後とも、治水・利水、良好な河川環境の維持保全に努めてまいりたいと考えています。

■監事

香川県河川協会 事務局 下村 健次

川を考えると、人が歴史の中で川といかに深く関わってきたかという事に思いを寄せざるを得ません。多くの恵みと、ときに甚大な被害をも

たらしてきたということ、治水と利水の技術の蓄積・向上により、人間社会の発展もあったということ。最近では、地球温暖化の影響もあってか、局地的な集中豪雨が頻繁に起こっており、災害の危険性が高まっているとともに、一方で渇水も毎年のように心配されています。

また、河川環境に対するニーズも高まってきております。

風水害や渇水などの災害に強い郷土を目指すとともに、うるおいのある良好な川づくりの事に携われること、及び治水、利水、さらに河川環境の保全に関して啓発・提言等を行う本会の活動に関わりを持てることをうれしく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

■監事・運営幹事

電源開発(株)西日本支店 支店長代理 井関 晴夫

この度、運営幹事を務めさせて頂くことになりました。水力発電事業に携わっておりますので、私の抱く川の印象は、まず人々に恩恵を与えてくれるということでしょうか。

でも、川は常に都合良く私達につき合ってくれずとは限りません。時には洪水や渇水といった厳しい一面を見せることはご存知の通りです。

会の活動を通じて一緒に川とのつき合い方を考えていければと思っておりますので宜しくお願い致します。

■運営幹事・参与

香川県土木部 河川砂防課長 尼子 進

今年の四月から河川砂防課長に着任し、「四国の川を考える会」の運営幹事及び参与を務めさせていただくことになりました。

香川県はこれまで災害の少ない県と言われてきましたが、平成十六年には、四国に六個の台風が上陸するなど、本県に甚大な被害をもたらしたと

ころであります。

また、近年は気候変動により局地的な集中豪雨が頻発する反面、渇水もたびたび発生し、早明浦ダムが平成十七年に続き、今年も貯水率がゼロとなる大渇水に見舞われています。

財政状況の厳しい中ではあります。本県の河川整備はまだ不十分でありますので、事業の効率化・重点化を図るとともに、ハード・ソフト両面で工夫しながら、よりよい川づくりに努めてまいりたいと考えております。

■参与

徳島県土整備部 河川課長 森兼水一郎

十年ぶりの三度目の河川課勤務です。私は過去二度とも、河川計画や改修事業の仕事に携わりました。河川の関わりで思い出深いことは、最初は、昭和六十一年に新町の水際公園の整備を徳島市の開発課と共に行ったことです。あれから二十有余年、現在は、県都徳島市の顔となる川づくりがNPO法人新町川を守る会を中心として、市民と連携協働して進められています。

二度目は、平成八年から十年で、県下全般の河川改修事業に携わりました。なかでも、国道五十五号バイパス、県営圃場整備、打樋川河川改修と、三位一体で事業を進め、調整費を活用しダイナミックに地域整備を行ったことです。

これからも、「I love KASEN」をモットーに、治水・利水・環境に調和した川づくりに努めてまいりたいと考えております。

■参与

愛媛県土木部 河川課長 別府征二郎

愛媛県においても、気候変化の影響を受けてか、平成十六年以降降水量の変動幅が大きく、洪水と渇水の頻発に悩まされています。

現在は、県都松山市で取水制限を行うなど、県内の渇水対策に追われている状況です。

また、県の財政が非常に厳しいため、浸水箇所の治水対策や河川管理施設の老朽化対応などが思うように進まない状況であります。民間活力を導入し、効率的な河床掘削を行う「民活河床掘削推進事業」や、NPOやボランティア団体等と連携し、環境整備を進める「愛りバー・サポーター制度」などを積極的に活用しながら、安全で安心して暮らせる川づくりを目標に整備を進めてまいりたいと考えております。

■参与

高知県土木部 河川課長 平田 幸成

この春から本職を務めさせていただきますことになりました。

地球温暖化の影響がどうかかわりませんが、近年、全体的には少雨化し、一方で雨の降り方が非常に極端になっています。

治水、利水、河川環境への配慮という河川管理の面では受難の時代を迎えているといえます。まさに自然界から試されているような気がします。

そうした中、大変厳しい財政事情ですが、安全で安心できる川づくりに少しでも貢献できるような努めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。